

Salon

Vol.108 2017年5月 新緑号



ホール3F 壁画 ポール・ゴッアマン作「ヴァイオリニスト」

CONTENTS

- 01 Prime Interview — パスカル・ロジエ
- 03 Phoenix Presents — ケイト・リウ ピアノリサイタル
今井信子 presents J・S・バッハ レクチャーコンサート
～バッハの時代と教会音楽～
- 05 Pick Up — 2017年度主催公演一覧
- 07 Essay de say — 問われる音楽文化に対する大阪の本気度 中村孝義

優美な音色で優雅を創造する フランスを代表するピアニスト パスカル・ロジェさん



©Nick Granito

1971年にロン＝ティボー国際コンクールで優勝。一躍脚光を浴び、国際舞台で精力的な活動を開始したパスカル・ロジェ。以後、世界の主要なオーケストラや指揮者との共演を重ねると共に、世界中のホールでソロリサイタルを行い、現在は名実ともにフランスを代表するピアニストの一人である。出身国であるフランスの音楽を最も得意とし、中でも、フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、サティなどは絶対的な評価を得、彼ならではの独自の世界を構築している。本コンサートでは、渾身のオール・ドビュッシー・プログラムを携えて登場。ザ・フェニックスホールならではの上質な音響空間で、パスカル・ロジェの紡ぐ淡く美しい音色を堪能していただきたい。

(取材・文：宮地泰史／あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール)

パスカル・ロジェ (Pascal Rogé/ピアノ)

パリ生まれ。パリ音楽院を首席卒業後、ジュリアス・カッチェンに師事。1971年ロン＝ティボー国際コンクールでの優勝をきっかけに、国際舞台で精力的な活動を開始する。これまでに、パリ管、フランス国立管、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ウィーン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ニューヨーク・フィル、シカゴ響、NHK響などの主要オーケストラのほか、指揮者では、ロリン・マゼール、サイモン・ラトル、マリス・ヤンソンス、シャルル・デュトワなどと共演している。17歳で名門ロンドン/デッカの専属アーティストとなる。「サン＝サーンス：ピアノ協奏曲全集」「ブーランク：ピアノ作品全集」「ラヴェル：ピアノ作品全集」「サティ：ピアノ作品集」などをリリースし、2回のグラモフォン賞、ディスク大賞、エディソン賞など多くの賞を獲得した。

「パスカル・ロジェ『月の光』～ドビュッシー・ピアノ名曲集～」は、2017年7月1日(土)午後3時開演。前売券は完売。当日券の有無は前日6月30日(金)午後1時以降に電話でのお問い合わせ、またはホームページをご覧ください。お問い合わせは同センター(電話06-6363-7999 土・日・祝を除く平日10時～17時)。

[プログラム]

ドビュッシー：子供の領分、ベルガマスク組曲、亜麻色の髪の乙女、水の反映、喜びの島 ほか

フランス音楽の真髄に迫る旅

どのような少年時代を過ごされましたか。

幸せな少年時代でした。音楽一家の元に生まれ、母と祖母はピアニストでオルガニストでした。祖父はヴァイオリニストだったので、生まれる前から音楽を聴いているようなものでした。文字を習う前に音符を学び、3歳の時にピアノを始めました。それ以来、音楽とピアノに情熱を注ぎ続けてきました。

その中で、素晴らしい先生ともめぐり合うことができました。9歳までは母の元でピアノを勉強していましたが、パリのコンセルヴァトワールに入学してからは、リュセット・デカーヴとルイズ・クラヴィウス＝マリウスに習い、学外では、マルグリット・ロン、ナディア・ブーランジェ、ジュリアス・カッチェンのもとで学びました。

若い頃、どのような音楽を聴いていましたか？今聴く音楽と違いはありますか？

若い頃から趣味はほとんど変わっていません。クラシック以外の音楽も昔から大好きでした。オペラはもちろんのこと、ビートルズを初めて聴いた時はとてもワクワクしましたし、今でも聴き続けています。ポップスや、シャンソンも好きで、ジャズも大好きです。(残念ながら私は弾けません)

音楽に対する情熱はずっと持ち続けています。そして美しいもの、素晴らしいものを愛する心もそのままです。あとは、料理、ワイン、旅、文学、絵画など、私の周りに存在する世界と人々に対して、強い好奇心を持っています。言ってみると、永遠の少年のようなものですね。

ロジェさんにとってのフランス音楽の魅力とは。

あまりにも魅力に溢れていて、すべてを表現するのはとても難しいですね。例えば、シンプルなメロディにハーモニーの創造性、独創性がある事です。また、哲学的・感情的な主張が無い中で、短い作品の中に多くのことが凝縮されていることです。様式よりも自由な表現に重きが置かれているところも魅力です。本当、数えきれませんね！

現代のフランスの作曲家の音楽についてはどのように思われていますか。

私にとってのフランス音楽は、サン＝サーンスから始まりデュティユーへと続きます。私がまだ6歳の時に母がプーランクのオルガン協奏曲を弾いていたのですが、その音楽に感動したことを今でも鮮明に覚えています。そしてドビュッシーの「雨の庭」と「帆」を弾いた9歳の時以来、サティ、フォーレ、ドビュッシー、ラヴェル、プーランクらが、私の毎日の“友人”となりました。また、ジェルメーヌ・タイユフェール(*1)やジョルジュ・オーリック(*2)など、あまり知られていない作曲家も好きです。残念ながら、存命のフランス人作曲家には、彼らほどの音楽的な喜びをもたらしてくれる人はいません。

ロジェさんの考えるピアノの音色とはどのようなものですか？

私の音楽の本質は音色であり、ずっと追求し続けています。音色は聴衆やあらゆる楽器と語り合う際に欠かすことのできないものです。人間の声は響きという性質のもとに存在していますが、歌手、ヴァイオリンやフルートなどの演奏家だけがその美しい響きを求めるわけではありません。ピアノも同様に、音楽は音そのものから始まるのです。

ピアノが人間と同じように“歌う”ことができると信じて、聴衆の耳に届けることが必要だと思います。そのためには、音階やオクターブを練習するように、音色を作り出す練習が必要です。また、イメージーションがとても大事ですが、こればかりは練習で創り出せるものではないですね。

日本についてどのような印象をお持ちですか？

もしもピアニストにとって理想郷というものがあるとすれば、それは日本だと思っています。この国には、演奏するために旅してきたアーティストにとって、望むべきすべてのものが揃っています。コンサートホールとピアノは本当に素晴らしく、楽屋は住みたくなるような設え。サービスも至れり尽くせりです。聴衆の皆さんは熱心で音楽をよく理解しているし、どこに行っても温かい人たちがばかり。

ずっと日本で演奏出来たらどれだけ嬉しいことでしょうか！

プログラムを組む際に気を配っていることはありますか。

フランス音楽による“音楽の旅”となるように、いつも作品の選択と順序に気を付けています。例えば、訪れた美術館である時代に同じインスピレーションを受けて描かれた多様な絵画を見る時のような情景を、プログラムで表現したいと思っています。このような理由から、聴衆の皆さんには曲間での拍手をご遠慮いただくようお願いしています。私自身の夢と皆さんの夢から覚めないように。拍手は、コンサートが終わった時に、美しい時間を共に過ごしてくれた感謝を表すためにするべきものだと思います。

今回のプログラムの聴きどころを教えてください。

このプログラムは、ドビュッシーの真髄に迫る旅です。彼がまだ若かった頃の作品から晩年に書かれた曲までを辿ると、ワーグナーの影響がみられる「アラバスク第1番」や「ベルガマスク組曲」から、「前奏曲集」や「映像」のような全く新しい斬新な作品へと変貌を遂げるまで、表現の発展をみることが出来ます。

ドビュッシーは改革者でした。音楽表現に新たな価値を見出しただけでなく、大胆なハーモニーの創造への扉を開きました。その中で、己と聴衆の喜びのために音楽を創り上げるという、彼にとって最も重要なことは守り続けたのです。

最後にお客様にメッセージをお願いします。

皆さんに、リラックスして夢のようなひと時を過ごしてほしいと思っています。ドビュッシーのハーモニーや響きの美しさを見つけ、会場を後にする頃には、美しいもの、生きる喜び、それらを他者と分かち合う喜びに包まれていることを願っています。是非、ザ・フェニックスホールでお会いしましょう！

*1 ジェルメーヌ・タイユフェール(1892-1983) フランスの作曲家。ロマン派の様式を基調に軽妙で洒落な作風が特徴。

*2 ジョルジュ・オーリック(1899-1983) フランスの作曲家。映画「ローマの休日」や「悲しみよこんにちは」の作曲などで知られる。



5月19日(金)
10:00 受付開始
ザ・フェニックスホール
友の会優先予約

5月22日(月)
10:00 受付開始
イーフェニックス
E-PHX優先予約

5月23日(火)
10:00
一般発売

インターネット予約、ご来店による
お申込みは**5月24日(水)10:00**から!

注目アーティストシリーズ67

2017年**11月9日(木)**

19:00開演 指定席
一般¥3,500(友の会価格¥3,150)
学生¥1,000(限定数)
出演 ケイト・リウ(ピアノ)

第17回ショパン国際ピアノコンクール第3位!世界が焦がれる女神の誕生
ケイト・リウ ピアノリサイタル

曲目 ショパン:3つのマズルカ 作品56
ピアノソナタ 第2番 変ロ短調 作品35
アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ 変ホ長調 作品22
ブラームス:4つのバラード 作品10 (予定)

第17回(2015年)ショパン国際ピアノコンクールでポーランドの審査員から誰よりも高い評価を受けていたケイト・リウ。テクニックだけではなく、その叙情性豊かな演奏が聴く者の胸に響いてきます。ショパンの作品が持っている純粋な音楽性を、瑞々しくありのままに表現する彼女の演奏は、完成形というより、まだこの先を楽しみにさせてくれます。これからもっと大きな世界に向けてどのように羽ばたくのか、現在進行形の進化する“今”をお聴きください。



ケイト・リウ (Kate Liu/ピアノ)

2015年、第17回ショパン国際ピアノコンクール第3位、マズルカ賞受賞。1994年シンガポールに生まれたケイト・リウは、シカゴ音楽院で、アラン・チョウ、ミカ・ユイ、エミリオ・デル・ロザリオの下に学んだ。現在は、カーティス音楽院でロバート・マクドナルドの下で研鑽を積んでいる。これまでに、第3回アジア・パシフィック国際ショパンピアノコンクール、モントリオール国際音楽コンクール、イーストマン音楽学校の国際ピアノコンクール、ヒルトンヘッド国際ピアノコンクール、オーバーリンのトーマス&イヴオン・クーパー国際コンクール、ニューヨーク国際ピアノコンクール、全米ピアノ指導者協会コンクール、ルイジアナ国際コンクールなど、数多くのコンクールで入賞している。アメリカのショパン財団から奨学金を授与されており、これまでにニューヨーク(カーネギー・ホール、サブカルチャー・アーツ・アンダーグラウンド、サルマガンディ・クラブ、エマヌエル寺院など)、ワシントン(ケネディー・センター、フィリップス・コレクションなど)、テレビ番組(シカゴWTTW放送)、ラジオ番組(アメリカン・パブリック・ラジオの番組「フロム・ザ・トップ」、シカゴWFMT放送の番組など)でリサイタルを行っている。シカゴ・シンフォニー・センターでは、ラン・ランとの共演で、シューベルトの幻想曲へ短調を連弾した。共演したオーケストラとしては、クリーヴランド、モントリオール、ヒルトンヘッド、エヴァンストン、スコキー・ヴァリー、ロチェスター、テグ(韓国)の各オーケストラがある。

ホール主催・協賛・協力公演チケットのお申込み方法

06-6363-7999

土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00

- ザ・フェニックスホール友の会優先予約
 - ・ザ・フェニックスホール友の会会員様の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・主催公演1公演につき会員お1人様2枚まで1割引でお求めいただけます。チケット購入の際、枚数制限はありませんが、3枚目以降は一般価格となります。
 - ・友の会への入会をご希望の方は、チケットのお申込み時にお電話でお申しつけください。同時に優先予約をお受けすることができます。その際、年会費1,000円が別途必要となります。
- E-PHX(イー・フェニックス)優先予約
 - ・E-PHX(イー・フェニックス)にご登録の方の優先予約日です(電話予約のみ)。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。
 - ・事前にザ・フェニックスホールホームページ、ホール会員のページからご登録ください。お電話での登録はできません。
- 一般発売
 - ・一般発売日は、電話予約のみのお申込みとなります。
 - ・チケット購入の際、枚数制限、割引はありません。

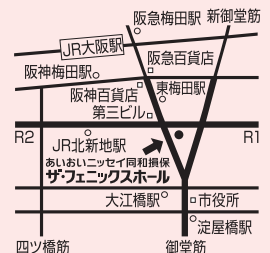
<http://phoenixhall.jp/>

チケットセンターのページからお申込みください

- インターネット予約(主催公演のみ)
 - ・ザ・フェニックスホールホームページ、チケットセンターのページからお申込みください。
 - ・チケット予約フォームに記載のない公演につきましてはおそれ入りますがお電話でお問合せください。
 - ・ホームページ更新の都合により、完売表示のない公演でもお申込み時には完売となっていることもございます。どうぞご了承ください。
 - ・学生券のインターネットによるご予約は受付いたしていません。
 - ・チケットご予約フォーム送信後、営業日3日以内に座席の有無、座席番号、入金方法につきまして確認メールをお送りいたします。

直接のご来店による
お申込み

・ザ・フェニックスホールチケットセンターはホール建物5階、エレベーターを降りて廊下右手です。



チケットお申込み後のお受け渡し方法 下記①または②のどちらかとなります。

- ①お申込み日から10日以内にザ・フェニックスホールチケットセンターへご来店ください。営業時間は土・日・祝日を除く平日の10:00~17:00です。
- ②先に郵便振込みをしていただき、入金確認後チケットをご郵送させていただきます。皆様のお手元にチケットが届きますのはご入金をいただいてから約10日後となります。その際、振込手数料はお客様にてご負担ください。尚、郵送は簡易書留(一律420円)のみとさせていただきます。

振込口座 00940-0-95351 加入者名 ザ・フェニックスホール

レクチャーコンサートシリーズ29

2017年11月19日(日)

14:00開演 指定席

一般¥3,500(友の会価格¥3,150)

学生¥1,000(限定数)

バッハのスペシャリストが語り奏でる、バッハの深遠なる音の宇宙 今井信子presents J・S・バッハ レクチャーコンサート ～バッハの時代と教会音楽～

出演 大槻晃士(講師/ヴィオラ・ダ・スパッラ)、井上静香、田中佑子(以上ヴァイオリン)、中田美穂(ヴィオラ)、三宮正満(バロック・オーボエ)、重岡麻衣(オルガン)、緋田芳江(ソプラノ)、中嶋俊晴(カウンターテナー)、眞木喜規(テノール)

曲目 J・S・バッハ: カンタータ «われ希望をもちて歩み求めん» BWV49よりアリア「我は華やかにして美し」
マニフィカト ニ長調 BWV243より「Quia respexit(その下婢の卑しき身をも)」「Et misericordia eius(その憐れみは)」 ほか

現在米国マルボロ音楽祭で音楽司書長とバッハ・アドヴァイザーを務めるバッハとバロック音楽のスペシャリストの大槻晃士氏が、バッハの魅力やその作曲方法と目的、そしてバッハの時代の楽器やその奏法などを音源と生演奏を交えてひもときます。演奏はバロック界、モダン界でそれぞれ活躍する腕利きの名手たち。バッハ愛に溢れた大槻氏のお話とともにバッハの広く深い世界をお楽しみください。



大槻晃士

(おおつき・こうじ/講師、ヴィオラ・ダ・スパッラ)

アメリカ・ミシガン州カラマズー生まれ、茨城県つくば市出身。幼少のころよりヴァイオリン、トランペット、そしてその後雅楽に傾倒するが、米国テンプル大学での学部時代には既にバッハの虜となる。同学大学院合唱指揮科を修了後、同学音楽学部で指揮法の教職を経て、外国人として東京藝術大学大学院古楽科に国費留学。鈴木雅明氏のもとバッハ演奏について学ぶ傍ら、鈴木秀美氏ら、世界の古楽界を牽引する同学古楽科教官の各氏に師事、古楽演奏の理解を深める。アメリカ帰国後はインディアナ大学古楽科博士課程でバロック演奏の研究に従事、バロックヴァイオリンと古楽アンサンブル・ディレクションをスタンリー・リッチー氏に、通奏低音をナイジェル・ノース氏に師事。2011年からはテンプル大学で復職、2012年秋からはヴィオラ・ダ・スパッラを独学し、2013年1月にカンタータ41番の演奏でデビュー。

現在は米国マルボロ音楽祭の事務局で、年間を通して司書長及びバッハ・アドヴァイザーとして芸術監督・内田光子氏ら演奏家のサポートを担当、夏期は内田氏のリクエストによりマルボロ音楽祭でバッハ・カンタータの指導にも従事する。また2015年度以後はテンプル大学を離れ、積極的に国内外でバッハ演奏と指導に携わる。近年においては国際セゾン音楽祭(米国フィラデルフィア)でのバッハの特別講座のほか、ヴィオラスペース(名古屋、大阪、東京)や小樽ヴィオラ・マスタークラスなどでバッハ講座を担当。2016年にはヴィオラスペース台湾(高雄)での演奏及びマスタークラス、そして中国上海音楽学院での講義とマスタークラスなど、国際的な活動の幅を広げている。

東京と米国フィラデルフィアでガムット・バッハ・アンサンブルを主宰。現在フィラデルフィア在住。

レポート
Phoenix
OSAQA
2017

聴いて育てる未来の名門
～弦楽四重奏の教育・啓発事業

Phoenix OSAQA 今年で最終回 大阪・兵庫・京都・愛知などから9グループ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールは、弦楽四重奏に携わる若い演奏家の育成と併せて聴衆の拡大を図る教育啓発プログラム「Phoenix OSAQA (Open String Academy for Quartet Artists)」を昨年に引き続き、2017年も3月18日(土)から3日間、ザ・フェニックスホールとリハーサル室などを会場に開催しました。

この事業では、1994年結成でベートーヴェンの作品演奏をライフワークと位置づけ取り組んでいる国内ナンバーワンの弦楽四重奏団、ジャパン・ストリング・クワルテット(JSQ)が指導にあたりました。指導を受けたのは、Aries Quartet[アリエスクワルテット]、イラレ弦楽四重奏団、Quartetto Albicocca[カルテットアルビコッカ]、Quartet Gloriosa[カルテットグロリオーサ]、Quartet STOVE[カルテットストーブ]、シャルクハフト弦楽四重奏団、Charlotte弦楽四重奏団[シャルロッセ]、Sophia Quartet[ソフィアカルテット]、Vierklee Quartet[フィアクレーカルテット]の9団体。JSQメンバーの久保陽子、久合田緑(以上ヴァイオリン)、菅沼準二(ヴィオラ)、岩崎洗(チェロ)の諸先生から、演奏のコツや作品解釈について、じっくり学びました。



指導の題材は、JSQが最も得意とする、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲。選曲は随意で、今年も、初期作品として知られる「第1番 ニ長調 作品18-1」から後期の「第16番 へ短調 作品135」など、さまざまな作品が並びました。指導の全てを吸収しようとする熱意と、真摯にアンサンブルに取り組む姿が記憶に残ります。そして最終日20日(月・祝)には、学習の成果を示す修了コンサートを行いました。今回は修了コンサートの前に、JSQにご登場いただき、PhoenixOSAQA10年を振り返り、トークを開催。ベートーヴェンの作品に取り組んだ経緯や、当時の弦楽四重奏をとりまく環境のことなど、たくさんのお話を伺うことができました。

この開催をもってこのPhoenixOSAQAは最終回となりました。これまで多くの方々にご拝聴いただき、誠にありがとうございました。これからも魅力ある事業を展開できるよう取り組む所存でございます。引き続き、ご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

公演
終了

ティータイムコンサートシリーズ

4月21日(金) 新倉 瞳(チェロ) & 佐藤卓史(ピアノ) デュオリサイタル

発売中

ティータイムコンサートシリーズ

5月26日(金) 寺田悦子 & 渡邊規久雄 ピアノデュオ

発売中

ティータイムコンサートシリーズ

6月16日(金) シューマン・カルテット

出演: エリック・シューマン(第1ヴァイオリン)、ケン・シューマン(第2ヴァイオリン)、リザ・ランダル(ヴィオラ)、マーク・シューマン(チェロ)

発売中

注目アーティストシリーズ

7月1日(土) パスカル・ロジェ「月の光」～ドビュッシー・ピアノ名曲集～

発売中

ティータイムコンサートシリーズ

7月14日(金) ラ・ルーチェ弦楽八重奏団

出演: 大江 馨、城戸かれん、小林 彦成、毛利文香(以上ヴァイオリン)、有田朋央、田原綾子(以上ヴィオラ)、伊東 裕、笹沼 樹(以上チェロ)

発売中

Kansai Soloists & Ensembles

8月26日(土) Osaka Guitar Summer 2017 <福田進一と仲間たち vol.8>
福田進一 & ホセ・アントニオ・エスコバル ジョイントリサイタル

★ギターの教育・啓発事業Osaka Guitar Summer 2017(公開マスタークラス)を8月26日・27日に行います。8月27日(日)17:00～は、フェスティバルコンサート(修了コンサート)も開催します。

発売中

アンサンブル・アラ・カルト

9月19日(火) 今井信子presents
ザ・イマイ・ヴィオラ・クアルテット ～ヴィオラ・フェスタ～

出演: 今井信子、ファイト・ヘルテンシュタイン、ウェンティン・カン、ニアン・リウ(以上ヴィオラ)

発売中

ティータイムコンサートシリーズ

10月13日(金) 郷古 廉(ヴァイオリン) & 田村 響(ピアノ) デュオリサイタル

一般発売
5月23日(火)

注目アーティストシリーズ

11月9日(木) ケイト・リウ ピアノリサイタル

一般発売
5月23日(火)

レクチャーコンサートシリーズ

11月19日(日) 今井信子presents
J・S・バッハ レクチャーコンサート ～バッハの時代と教会音楽～

出演: 大槻晃士(講師/ヴィオラ・ダ・ス帕ツラ)、井上静香、田中佑子(以上ヴァイオリン)、中田美穂(ヴィオラ)、三宮正満(バロック・オーボエ)、重岡麻衣(オルガン)、緋田芳江(ソプラノ)、中嶋俊晴(カウンターテナー)、眞木喜規(テノール)

発売中

ティータイムコンサートシリーズ

11月24日(金) ラデク・バボラーク(ホルン) & 吉野直子(ハーブ) デュオリサイタル

7月
発売予定

注目アーティストシリーズ

12月16日(土) 伊東信宏企画 三輪真弘×前田真二郎 モノログ・オペラ「新しい時代」

7月
発売予定

サンデー・クラシック・サロン

1月21日(日) サンデー・クラシック・サロン
～“赤”から連想する曲目(プログラム)のミステリー～

出演: [第1部] 藤江扶紀(ヴァイオリン)、山中惇史(ピアノ) [第2部] 沼沢淑音(ピアノ)

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール協賛公演のご案内

ザ・フェニックスホール友の会会員の方には割引特典があります。当日券をお買い求めの際は会員証をご提示ください。

協賛公演

関西二期会サロンオペラ 第15回公演「カルメン」

主催 公益社団法人関西二期会

発売中

2017年7月11日(火)、12日(水) 19:00開演 自由席 一般前売・当日¥3,000(友の会価格¥2,700)

出演 金正奉(指揮)、高木 愛(演出)、蜷川千佳(ピアノ)、米田哲二(公演監督)

キャスト(11日):朝山加奈子、山崎 覚、萬田一樹、林 隆史、野々村 瞳、

田村香絵子、田中章子、田中崇由希、島袋羊太

キャスト(12日):大河輝枝、藤田大輔、山咲 響、林 隆史、山口 慧、

中尾恭子、山本 歩、有本裕之、中川智樹

曲目 ビゼー:歌劇「カルメン」

毎回ご好評を頂いております関西二期会サロンオペラ。気軽にプロの演奏を楽しんで頂くことをテーマに公演を重ねてきました。第15回公演は、日本国内でも最もポピュラーなオペラとして親しまれている「カルメン」をお届けします。親しみやすいメロディが盛りだくさんの人気のオペラを歌手の息遣いまで感じられるザ・フェニックスホールの空間でお楽しみください。



協賛公演

篠崎史紀ヴァイオリンリサイタル in 大阪

主催 一般社団法人あおによし音楽コンクール奈良

発売中

2017年7月20日(木) 19:00開演 指定席
一般前売¥5,000(友の会価格¥4,500) 一般当日¥5,500(友の会価格¥5,000) 学生前売・当日¥3,000

出演 篠崎史紀(ヴァイオリン)、入江一雄(ピアノ)

曲目 ブラムス:スケルツォ 変ホ短調 作品4

ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調「雨の歌」作品78ほか

NHK交響楽団ヨーロッパ公演ソロでは「言葉にならないくらい神がかった」とイギリスでも評された、マコこと篠崎史紀(NHK交響楽団第1コンサートマスター・あおによし音楽コンクール奈良アドヴァイザー)と新進気鋭ピアニスト入江一雄による極上のとろける響きを、この機会にトークとともに、どうぞお楽しみください。



©K.MIURA

協力公演

サマーミュージックフェスティバル大阪2017《20年の時を奏でて》
夏祭なにわなくとも室内楽Vol.9《ろうまん嬉遊会》2017年7月22日(土)、30日(日) 17:00開演 自由席
一般前売・当日¥4,000(友の会価格¥3,600) 小中高生¥1,000 セット券¥7,000主催 大阪アーティスト協会
構成・監修:網干 毅、小味淵彦之

発売中

出演 【7/22】 山内 愛、今村雅子、小濱加奈子、小竹詩乃、松村英臣、笹村直子(以上ピアノ)、増井一友、山中由美子、山中美智、佐久間 優(以上ギター)
安藤史子(フルート)、橋爪恵梨香(オーボエ)、篠原猛浩(クラリネット)、世古宗優(ホルン)、東口泰之(ファゴット)、
佐野智子、釋 伸司(以上ヴァイオリン)、三木香奈(ヴィオラ)、山岸孝教(チェロ)

【7/30】 木下たまみ、佐々木愛、松村敬子、福井真裕子(以上ピアノ)、ギオルギ・バブアゼ、日比浩一、萩原合敏(以上ヴァイオリン)、
三木香奈(ヴィオラ)、大町 剛、日野俊介(以上チェロ)、南出信一(コントラバス)

曲目 【7/22】 リスト:祝祭ポロネーズ、レ・プレリュード ミラン・テサール:ディヴェルティメント
バーバー:思い出 作品28 ボッケリーニ:ギター五重奏曲 第4番 二長調「ファンダンゴ」
ブラームス:ヴァイオリンソナタ 第1番 ト長調「雨の歌」作品78 ブーランク:ピアノと管楽のための六重奏曲
【7/30】 メンデルスゾーン:ピアノ三重奏曲 第2番 八短調 作品66 モーツァルト:ディヴェルティメント 変ロ長調 K254
シューマン:ピアノ五重奏曲 変ホ長調 作品44 シューベルト:ピアノ五重奏曲 イ長調「ます」D667

改修工事に伴うホール休館のお知らせ

あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールでは、2018年(平成30年)に舞台機構や照明設備、空調設備等の改修工事を施工することとなり、その間を休館させていただくこととなりました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

◆休館期間◆ 2018年(平成30年)1月25日(木) ~ 2018年(平成30年)4月30日(月・振休)

〈お問合せ先〉 TEL:06-6363-0311(代表) (土・日・祝を除く平日9:00~18:00)

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー内あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホール

ザ・フェニックスホール友の会会員様限定
~2017年度ティータイムコンサート通し券特典 当選者発表!~

2017年2月28日までに、2017年度ティータイムコンサートの通し券をお求め頂いた会員様の中から抽選で5組10名様に、本年度主催公演(ホール指定)のご招待状をプレゼントする限定特典の当選者は以下の方々です。

今月26日はティータイムコンサートシリーズ第2公演目、「寺田悦子&渡邊規久雄 ピアノデュオ」を開催いたします。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

■プレゼント当選者■ 東大阪市/碓井様 豊中市/市嶋様 大阪市/矢野様 大阪市/田中様 枚方市/松下様

問われる音楽文化に対する大阪の本気度 —中村 孝義



Keizo Matsui

大阪に生まれ、かれこれ70年になろうとする。私は小学校の時から学校教育での音楽にどうしてもなじめず、当然成績も振るわず、結果的に音楽を敬遠しがちな子供であった。ところが中学3年生の時、ひょんなことからクラシック音楽の面白さに目覚め、これにぞっこんになり、高校では受験勉強そっちのけでクラシック音楽漬けになってしまった。理科系への進学を予定していたのに、音楽に接する時間を一分でも長く持ちたいという思い断ち難く、音楽学なるものを学ぶ専攻に進みいつのまにか50年の月日が経過した。

その50年を振り返って思うのは、早い時期にクラシック音楽という宝庫に出会えてよかったという思いと、結果的に今の仕事(音楽学者、音楽評論家、音楽大学経営者)に携わることができて本当によかったということである。しかも1960年代から70年代にかけての大阪には、私のような人間を育ててくれる環境があった。

私がクラシックの音楽会に通い始めた1960年代半ば頃、大阪にはオーケストラは大阪フィルしかなく、演奏会もそう頻繁にはなかったが、多くの人がクラシック音楽に熱い思いを持っていた。今から思えば2800人も入る旧フェスティバルホールを除いて、ソロや室内楽さえも、まともに聴けるホールなどほとんどなかったが、それでも多くの人が熱心に演奏会に通い、その芸術をどん欲に吸収しようとする情熱があった。現在も続く大阪国際フェスティバルは、毎年4月～5月に世界の名だたる演奏家、芸術家を集中して招き、まさに夢のような音楽の饗宴が繰り広げられたのだった。大阪で万博が開かれた1970年はそのピークの一つだったが、その頃までは、大阪でしか演奏しない演奏家もたくさんおり、大阪はまさにクラシック音楽の日本におけるメッカだったのだ。

フェスティバルホールには、私が聴いただけでも、セル、バーム、カラヤン、バーンスタイン、リヒター、ヨッフム、クーベリック、クリップス、ムラヴィンスキー、チェリビダッケ、テンシュテット、ブーレーズ、ショルティ、ラインスドルフ、マタチッチ、デイヴィス、サヴァリッシュ、シュタインなど、今では

鬼籍に入ってしまった20世紀を代表する錚々たる指揮者たちや、リヒテル、ゼルキン、ケンペ、カサドジュ、ギレリス、シェリング、スターン、コーガン、フルニエ、ロストロポーヴィチなど綺羅星のようなソリストたちが集い、どれほど聴衆の心を奮わせたことか。

当時国際フェスティバルには学生席があり、2階最後列の座席で、数えきれないほど多くの名演奏に酔いしれた。70年万博時には、リヒテルやカラヤンの演奏会の最安値の席を購入するため、夜を徹してプレイガイドの前に並んだのも今となっては懐かしい思い出だ。

もちろんそんなクラシックに対する飢餓感があった時代と比較しても仕方がないといわれればそれまでだが、現在は、このザ・フェニックスホールを始め大阪には世界に誇ってもいいようなホールがいくつもあり演奏会も頻繁に行われているのに、音楽界全体に今一つ熱気が感じられないのはどうしてだろう。現在はあらゆるものが簡単に把握できないほど溢れ過多になっている。クラシック音楽界でも、本当に注目すべきものがあつたとしても、それに気づくことさえ容易ではない。その結果多くの人が大事なものを見過ごしてしまい、演奏会も超有名演奏家のものを除いては、閑古鳥が鳴かないとも限らない結果となる。こうなれば行政も財界も手を差し伸べてくれなくなり、大阪は芸術文化にかけられている費用が住民一人当たりで換算して日本最低という有り難くない冠を被せられることになる。

果たして大阪は往時の隆盛を取り戻すことができるのだろうか。もちろん物事に不可能なことなどない。人がそれをやる気になるかどうかだ。お隣の兵庫や京都では、行政の手厚い理解や支援もあつて音楽文化は大輪の花を咲かせている。大阪でも文楽の危機が叫ばれたとき、大阪人は決してそれを見捨てはしなかった。クラシックに携わる人間が、アーティストも仕掛ける人間もメディアも含めて、本気でその掛け替えのなさを多くの人に知らせたいと考えているかどうか。まさに今こそその本気度が問われているのである。

中村孝義(なかむら・たかよし)/音楽学・大阪音楽大学名誉教授

1985年ドイツ・ヴェルツブルク大学音楽学研究所客員研究員。1991年大阪音楽大学教授。2006年大阪音楽大学学長。現在は理事長、名誉教授、ザ・カレッジオペラハウス館長。文化審議会委員、文化庁芸術祭審査委員、日本芸術文化振興会評価委員などを歴任。現在も、ロームミュージックファンデーションなどの財団評議員や、日本芸術文化振興会の運営委員など、多くの財団、公的機関の役員、委員を務める。室内楽を中心とする音楽学研究のほか、オペラ活動やアーツ・マネジメントにも関心を寄せ、新聞、雑誌などで評論活動も展開。主要著書に「室内楽の歴史」(ミュージック・ペンクラブ賞新人賞受賞:東京書籍)「ベートーヴェン 器楽・室内楽の宇宙」(春秋社)「音楽の窓」(カワイ出版)などがある。



あいおいニッセイ同和損害保険株式会社は、あいおいニッセイ同和損保ザ・フェニックスホールをフェニックスタワー内に設けています。芸術・文化の発信基地として、関西の芸術文化発展に寄与しています。

〒530-0047 大阪市北区西天満4-15-10 あいおいニッセイ同和損保フェニックスタワー5F TEL 06-6363-0211
Copyright(C) 2011 The Phoenix Hall All rights reserved. 本誌に掲載された記事、写真、イラスト等の無断掲載を禁じます。

発行年月 2017年5月
発行 あいおいニッセイ同和損保
ザ・フェニックスホール
編集 諸藤 修一
デザイン 松井桂三有限公司

